

福島大学の遊園地 「マジックショー」



福島大学の4年生がマジックショーを見せてくれました。ペットボトルの口に5円玉をのせ上から鉛筆を落とします。5円玉には鉛筆が通らないはずですが、黄色い筒をかぶせるとあら不思議？鉛筆がペットボトルの中に落ちるのです。

翌日は朝から「先生！5円玉ある！」と大騒ぎの子どもたちでした。

〔4歳児〕



強く押すと入るんだ！

「黄色い筒が欲しい！」けれども自分でうまく筒状にはできません。なんとかできましたが、鉛筆がやっと通るくらいの細い筒です。さらに大事なものは色。黄色い筒にこだわる4歳児。他の色は人気がありません。偶然鉛筆がペットボトルの中に落ちると「強く押すと入るんだ

よ」と推測したり大きな声で「は～っ！」と念を送ったからだとな納得したりします。すると保育室の中では大きな「は～っ！」が飛び交うことに……。魔法」というファンタジーの世界にいる4歳児です。



「は～っ！」

〔5歳児〕「5円玉ちょうだい！ペットボトルも！」

誰も黄色い筒には興味を示しません。

ペットボトルの口に5円玉をのせると、どういう時に鉛筆が落ちるのかを試しながらじっくり観察します。

落ちた瞬間、顔を見合わせて「やっぱり、（5円玉が）ずれたんだ！」と何度も試します。先生が「ずれるって？横に？」と聞くと「違うよ、ほら、こうやって」とゆっくりと鉛筆で5円玉の端を押して5円玉が回転するところを見せてくれました。友達同士で、「もっと端っこを狙わないと・・・」と鉛筆を落とす部分を教え合います。先生が「この黄色い筒があるからじゃないのかなあ」と言ってみると、「その黄色い筒は隠すためのの！」「トイレットペーパーの芯だっていいんだよ。」と言うのです。

そして、5円玉を2枚、3枚と重ねても鉛筆は落ちるのか？そんなことまで試し始めました。



5円玉2枚でも
落ちるのかな・・・？

マジックには、仕掛けがあることに気付き、それを見破るために自分たちで試していくのが5歳児なのだと思います。